令和5年度 第3回 内子町教育改革懇談会の協議結果（概要）	
開催日時	令和5年11月15日（水） 19：00～20：35
出席者	委員：15名（2名欠席） 事務局：5名
協議事項	(1)学校統廃合に関することについて (2)今後の進め方について (3)その他
協議内容	<p>(1)学校統廃合に関することについて</p> <p>諮問事項（学校統廃合・施設整備・学校給食に関すること）のうち、今回は一つに絞り協議。</p> <p><意見交換></p> <p>→【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校は先生と児童生徒の結びつきが強いが、子どもたちが中学生・高校生になったとき戸惑いが生じるのではないか。子どもたちのことを第一に考えると統廃合を考えるべき。 ・教職員不足の面を考えると、残念だが小規模校の統廃合は仕方ない。 ・小田地区は最近コミュニティ・スクールを立ち上げたばかり。小・中学校が無くなると地域の繋がりが弱まるおそれもあるので、できるだけ小規模校の存続を望む。 ・小規模校だと子どもが可哀そう、成長が妨げられる等のデメリットの意見が出てくるが、メリットも考えてもらいたい。地域との繋がりは、深い地域愛が生まれ地域が守られる側面がある。 ・できるだけ小規模校を残していきたいが、子どもの成長を妨げることになるのであれば、地域として強い反発はないのではないか。また、保護者が統合したいという意見が多くなれば仕方ない。 ・内子町は、大江健三郎さん、洋画家の中川八郎さん、上岡美平さんが生まれ育っていて地域がそれだけの特色を持っている。一度町外に出た子どもたちが、内子町に帰ってきて生活することが重要であり、技術的に統廃合の是非やデメリット・メリットの前にもう少しスパンを長く持ち、子どもたちの成長を考えていく必要がある。 ・10年程前に統合されたその当時と比べ、通学時間が今の倍以上かかり、子どもたちへの負担が大きくなるのではないか。 ・地域に学校が一つ・二つあり、地域の人たちと一緒に子どもたちを育てていく環境がすごく大事であり、自分の地域を大事にする子に育てて欲しいと思う。できるだけ小・中学校を残してもらいたい。 ・1クラス1～2人になると張り合いがなくなる。インターネットで各学校を繋ぐことは可能だが、それぞれの学校の進路も違うため調整する先生の負担がかかる。 ・中学校は部活動の問題もあるため、分けて考えた方がいいと思う。 ・教職員の立場から、小規模校は教職員数も少なくなる。一人一人が持たなければならない仕事量・役割が増える一方で、テストの採点等の負担は減る。中学校については、教科担任制のため免許外で授業の対応をしなければならず教職員の負担になる。 ・教職員の指導の面から、今の状態であれば小田中学校も大瀬中学校もしばらくは大丈

夫だと思うが、これ以上生徒数が減ると、意見が出にくい・競い合いがなくなってしまう等の問題が出てくると思う。

・小規模校に関して、小学校は基本的に保護者がもう駄目だと言うまでは残す。そして、子どもたちに地域の良いところを小学生時にたっぷり吸収してもらう。

・中学校は5年以内に内子中学校・五十崎中学校のどちらかに統合。部活動の選択肢が少ないのは辛い。ある程度競争させ、人間関係も逞しくなって欲しい。

・保護者の視点から、現状は1クラス10名前後で学んでおり、恵まれた環境であると感じる。今後、児童数が減少して、同級生がほぼいないという状況であれば、学校統合して、ある程度の人数の学校で学び、友人関係も築いていける環境を望むと思う。

・地域住民の視点から大瀬は大江健三郎さんの故郷であり、中学校校舎は大江氏とゆかりがある独創的な建築。小学校は2017年に新築された木造校舎。地域にとっても、学校に誇りや愛着がある。地域づくりの観点から何とか踏ん張れないかと思う。

・周りの保護者から、大規模校では、クラスで揉め事があった場合、クラスを離してもらうことができ良かったという意見があった。

・統廃合を行う前に交流する機会を設け、子どもたちにどういう学校なのか見てもらい、子どもたちの意見を聞くのも一つの手ではないか。

・学校の経費等も考える必要があるが、子どもたちのためなるようにしてもらいたい。

・統廃合の経験をした人に意見を聞いたらどうか。言えなかったこと・辛かったこと・逆に良かったことなどを拾い上げ、それを解決するための議論も大事だと思う。

・大規模校が良いということではないが、1～2人の複式学級では、子どもの成長はそんなに良くないのではないか。1学年20人程度いないと生きる力というものを蓄えにくく成長しづらいのではないか。

・小規模校のデメリットで大きいところで揉まれていないという問題があるが 小学校ではあまり関係ないのではないか。中学校はある程度大きな世界で経験を豊かにさせたい。

・小学校は、通学時間が長くなり体力的に心配な面もある。小規模校の小学校はある程度残し、中学校は統廃合する。

・統廃合することにより、放課後児童クラブを利用しやすくなり、保護者にとって安心できる材料の一つになる。

→【事務局から】

・学校の経費について、学校の先生は基本的に愛媛県が人件費を、その他町が雇っている生活支援員等は町が人件費を、それ以外に学校を運営する経費は全て町がみている。決して経費を減らしていくという視点ではなく、統廃合により生じた経費で子どもたちの教育環境等を集中的に整備し改善していくということを共通意識として持ち協議していただきたい。

(2)今後の進め方について

<意見交換>

→【事務局から】

・愛南町へ研修に行った際、グループ討議を採用したことで皆様の意見をより反映することができ、またすごく良い意見が出たという話を伺った。今後の進め方の一つとして、グループ討議について提案。

→【委員】

・グループ討議もいいと思うが、今の段階で討議を進めてもなかなか深まっていけないのではないか。統廃合を経験した地域の人たちの意見を聞く、学校や地域に足を運びワークショップを重ねた方がいいのではないか。

・統廃合を経験した地域の人の意見を聞くことについて、個人個人の人間関係の状況や立場によって意見が違う。意見を一つにまとめるのは難しいのではないか。

→【委員】

・最近、統廃合を経験した人たちの意見は聞けるのか。

→【事務局から】

・現実的にできるのか難しい。どこにポイントを合わせるのか、どのように抽出するか等の課題がある。

→【委員】

・未就学児の保護者に聞くことはどうか。

→【事務局から】

・在校生や幼稚園・保育園、0歳児までの保護者にアンケートを行うことは大切。保護者が、どのような学校・学級・人数なら通わせたいと思うのか。統廃合案を考えていく上で、貴重な基礎データになる。

→【委員】

・当懇談会の期間は2年間だが、諮問事項に関する結論や方向性はいつまでにしなければならぬか。

→【事務局から】

・2年は目安。2年を超える場合もあるかもしれない。

・次回のテーマは、小規模校、大規模校のメリット・デメリットや同時にアンケートの実施(アンケートのひな型は、次回の懇談会で示すことは可能)等について、提案。

→【委員】

・皆が共有できる未来像、10年後はどうか。ある程度たたき台のようなものがあるといいのではないか。

・今回は、グループ討議はしない方向で。

→【事務局から】

・小規模校及び大規模校のメリット・デメリットが出た後、共有できる未来像、10年後はどうか、たたき台の準備ができればと思う。

→【委員】

・町内の「2013年時の18歳の人口」と「2023年時28歳の人口」のデータが欲しい。高校卒業後、内子町に戻ってきているのか確認したい。

→【事務局から】

・後日、人口のデータはお知らせする。他にも必要な資料があれば、事務局まで知らせ

	<p>て欲しい。</p> <p>(3)その他 <意見交換> →【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員不足が問題となっている。教職員の負担軽減を行うべき。 ・教職員の負担軽減に関する事で、PTAの親子活動は、先生が段取りを行うのではなく、役員が主になって進めて欲しい。 ・教職員の負担軽減に関する事の追加で、ジョブチャレンジの先生の見回りは、強制する必要はないのではないか。問題が起こったときの最小限だけの対応で十分ではないか。
協議結果	<p>○次回のテーマは、小規模校、大規模校のメリット・デメリット及びアンケートに関して(次回はグループ討議はしない)。</p>